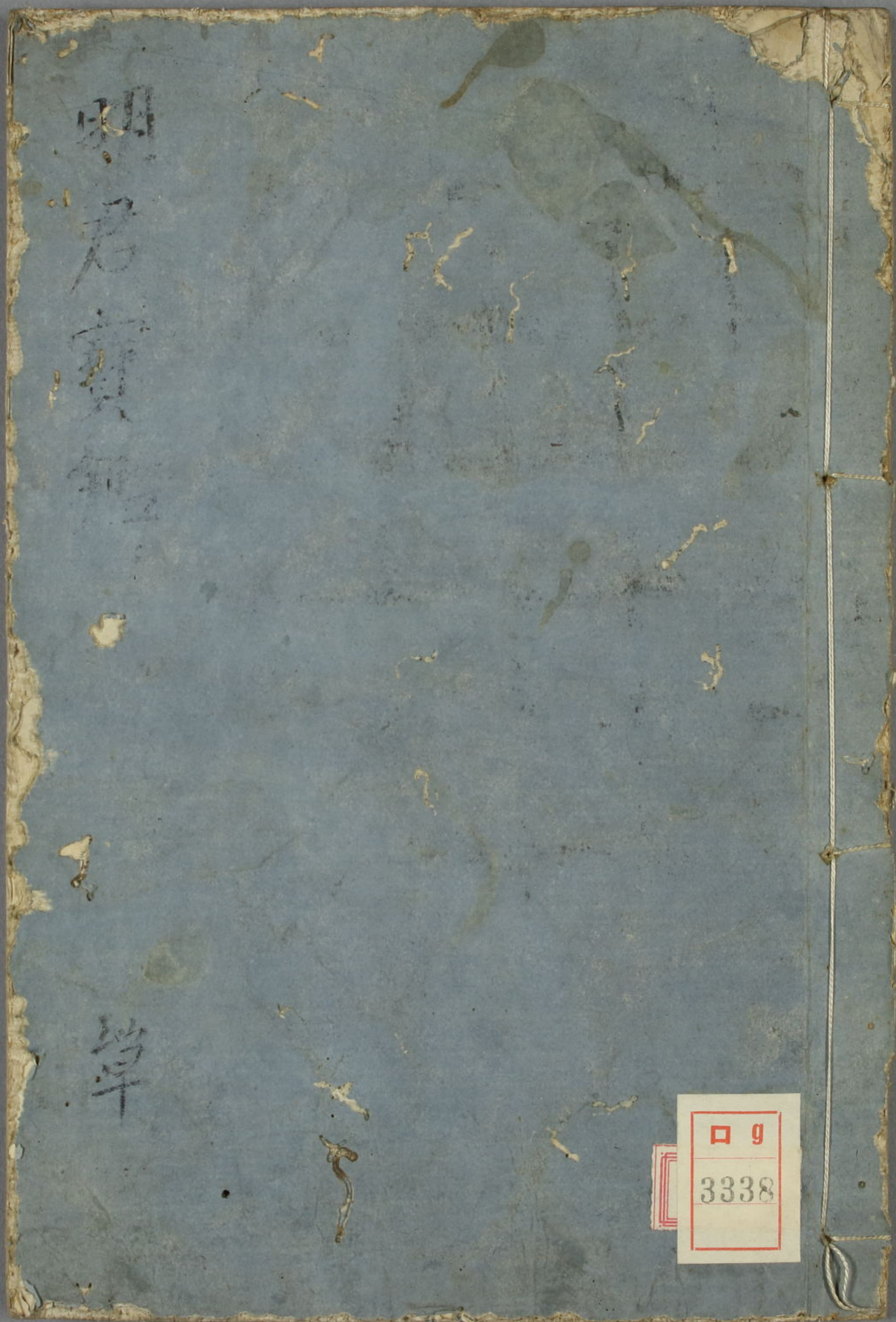




3338

明君寶鑑序

日知館
文庫印

去
五味均平藏

古之教人者必先躬而後教人以躬教者從焉君子之感
化異世者亦然矣雖有喜言而無善行則不足以為徵也無
徵則不信者也身端心誠不令而行焉不言而信焉恭以藤姓
之君其性仁厚遇良而重忠孝愛民人觀民善則自取之矣
為法觀民不善則不謹之自以及其行國民仰之若父母矣
既建史館教之尋倫之道誦武術備之不虞之時其騎

藏

將通曉兵法也厥戎卒修鍊武藝也文教武策全備古今未
嘗聞有如此盛蹟也而廢也而有繼茲之矢可謂希也
明君也僕客於管內有年暗浴大德之仁化以頗通習武術
私淑而與聞其行狀之百一患矢其取聞而以忘僭踰之
罪記輯之竊附管見僕不文不才却恐毀明君之德乎如
今此編也不以言錄之取行呂錄之便是所以無善行則
不足以為徵矢鳴乎明君尊文事而大化民備武成而

克守國可謂文武兩全者也故命曰文武蹟矣

隱士斤島武弟謹誌



内常の殿ふわひく文臣はく毎日二坐し海
謨書を経七書等と聞けり竟く世に謝りぬ
しむる近公替の言事きく世義と名めんと文
臣人といひ人宛隔日の初く主の必儒臣衣のと
笑ふ事く海く

文臣竊曰聖賢の道はろき授きしる北西を
とくり衣は後とやゆくふやとの厚儀爲

敬成ありと魚

是少くく三綱を常く道のと衣士者誰退後
譲成さくく其棄の者非成ぬと國宰の煩
なりく衣百歳成ぬと一年儒臣の命とて
春秋と傳きし正月の國巻く文臣何某
清みや見ぬ敬成衣代の春
も年一京郭くくむのト来りく

わがまゝにけりしふもやまゝにけりし氏の春
世詞成りし一語の發句も一を意味あり吟
味と金一

而く此藝の教場多し中へ遊人なるものも然る也然る後
人君常ふ事ふ我家壯士進く世に藝を長す金一必
下道し事ふり成り不費常ふ心成り用る時におはふ
藝の名目おありものなりとてをうらんやと詠は壯士

争進んぞ日成り藝術ふも一遊心成り演聲の樂
然とてもふ施夫徒の目く妙進りし詠也_三と流
た同し一びやの進人巧み月々年々競ひし
主ぬとてしもの一功官ふ應一加添慶義成
施一わが中平法とてしもの忠義を流し藝と
演金と積るなり修一ゆきし藝人一身の正士
貧乏小国とてしもの武備成りしふ似しとて

一平ふ極端之十行鉉子十貫目より小身乃西ふ
族より一平ふの武能皆おあふ一貫と元成
なり

氏難竊小曰右文武一通成鼓矜一めふ
主叙より體用中末の左より右の文武といふ
體と一めふ西とい用と一めふ無法とい本と
一氏難取へあふ一めふ一平ふ教めふ

一とに西とい體と一と文とい用と一と氏難と
一と一無法とい末と一と一と文武とい他人論
三國と常法とい自こは通成中末は是より一と
將の體といと西といの西といは西とい則西備
なりと無法とい別軍強し規則節制無法や
氏備無法とい一と常成とい一と目也一平ふ文
主將小力とい一と一と一と一と一と一と一と一と

獨令山々通溪流くと小亭より土居を將め
手をうまひて並退き居りけり唯此処に
則小慣哉——篇別小促とい通とす也——

是將士文武の通叙あるの大言也世より君
 天啓に徳政備ふの時より一州とて
 鍛めんと志ししと是く徳と徳と忠と法
 孫子の王霸と兼くするがふ兵は皆これぞ

も速なると聞いず巧の久しき成見にと
 なく修ふに攻めとつゝとを戦道の極と
 勝本は速なるといふに攻めありやとて速を
 いふんや君の忠告の精銳なりけりや君常ふ
 一夫と云ふふ敵一五といふ軍成推測とを
 智しうとて唯やけりといふふも
 のなりん君性と云理ふに仁文にうら

とゆふはめく有司士平小命とる精流の
兵衛く子に成慶とる所と好くめく是を
孫其の書成とる人と和事とたしめらる
成に人やしくふめくらん

概印初定所乃門内正西源人成慶小一の函有り其
銘小曰所郷中目安相子八月晦ふふとて近臣
彼やともの一人ととる箱成同とる自獨

その中成見めく人なり知る事なり
ととるくと下れ諸役人祐毫も犯さずめく
小目の唯成改り唯法廉宗直成過し宿務の
地くはばらふとものうま

成娘竊少と帝亮小練報り湯玉小誹謗の亦り
亦小目安相りと成小異りとも無きふ成成保也
その系との中と皆に徳しとハスハ目安直休の如くあ
つねの所と事と成とめく

君平日乃の状朝の卯の解く梯報ふ記く浴室は
つと成清く——道は幕府のわたりとて多成汗候
——重臣と國公と痛く食ふ成潤ふ主膳汁
一菜肴く珍味佳肴と用ひあつと甚多食なり
心壯乃し——酒成考ふあひくふ兄考の業成
建あひ——と蓋敷と定格と定一世の同定

相ふ石元半の多き——則成論く——一ふえな
——食事清きとて又公格と痛く——酒成考ふあひくふ兄考の業成
武藝成修——夜よ入きと家禮乃大人に諸國を
同流や——若くふ成集く——わたり風格成士の剛
業成形く初害成く——初種あ後痛を——か
里ふも家門諸士の腹腹人氏の台想を禁く
——あわやとよの別く——即成ふ　わ

ううふ君乃代々年一ふうきう此え考の居
用とて一金浪為千か息成流く悉く返りあへ
得んうう高高の従とくを致す小農高等取とよ
来るも新ふ賜と受とくふふうあひお浪てを君
の代末年一ううううううの金浪利成とく
りきき一浪く収とくあふ海とん人いふうあふ
似うう唯年一とあ返りううううお楽く収とく

と聞あひ農高の従ふお接り従答とくうう
曰爾等がききお最優り物とくくええ君浪く
金浪成流く不意成消とく一時を我ひ人なり
え代にあ返りうう雨等が恩と謝とんと思とれ
しううう後不日ううう平をを中意なりと謂
今世金浪と不沙返りうううあふ只人のを成能ふ有り
あひううう農高お君の忠孝成感激ううう終ふ命

有少從之

或云金の負む高きなりと云く

毎月定日一々執事成し一々百司監察し一々
し一々なり一有り君も別相俱小食一なり是成
相付りと名づく一活記二汁と菜汁一は日一時君群
臣小群く謂く日各半日乃館食する一は群臣
等も一我も小常日美味成食するは美味成也

むは質朴成し一々忠節極氏小充んて欲て我
え祖の功告ふ一々諸候乃宋貴成たり一々國氏
乃と小君を成し一衣食之し一は百と云く一は
曾祖父所くの攻城野戦小あり一々堅陣成圍圍と取
て或は一日二日一食二飯の事なり一々大は艱難成な
りなり一々小今主時の當成なり一々食を飽
すし一々質服成暖ふなり一々天命と云く

小形くろねに我必如田子成るを夜ふまゝすすめ
騙借成いすく後金成端く府庫むきく
くくく不意ふびんく無奉征伐小漢く事なる
勿くくす從まふ君への不忠之罪なりも亦之通意
者くくく重きくくく柳高泉の幕府普世の
重なりくくく思ふくくく用櫃の
横色と顔もくくく藩屏に何く常く魁帥の如く
くく備と素くくく事業くくく急ぐくくく
くく少後く我常く酒佳育成くくく衣を
製する成くく常は是よりくく食に乳と卵とを節
くく酒は経格成く君之男母の通にあり成探り
くく我もくくくの如く儉約くく諸事くく
是よりくくく最是人道の慎又又の男則と用
くく知なりくくくといふんや你等乃如きくく平日

名因酒肴と食と事有るは是に我今日此の
滋味設きし物なりとの用ひざるは近き
し幕府小殺生と禁せられは府より歎と歎
賞せしるは是に遠國にありて是に
しるは此と事ありて今日此の
つものとゆきし我は是に歎と歎
しるは今日格別なまは酒肴と事あり

つる種々のものなりと諸君の
おめ

此等私に之を居るは是に教へ人使ひありて
常より是なりと此に統るは是に法令は是に
る幕府にありしは是に今日の事なり
我は是に是に是に是に是に是に
し人なりと是に是に是に是に是に

必は成るに親之をたのむるに
感謝や一の福吏部吏も皆自ら一以
自往と徳の進むにふたなり
其の状きくく一と可謂

君平日の状に久松内ふうう、
一人の言の百を、その年の扈從が輩に
酒の樓館に限り、自今一、空くとある

と、海宅と、今と、各下城と、一日、
河東諫、曰君平日公勢、
ひ文氏、
うもす、
金ふ、
い、
何とも、

聖賢の通ずるはつとや最遠を慮ふはつと
凍えといふはつと右顔也哉正といふは
義のつとつとつとつと人世五十年日數二百日
不足力く性成盡天地の事との多く大壽は天の
つとつと何ぞも成受つとつとつとつと天地の
思といふはつと人つとつとつとつとつとつと
今人偏の通成つとつとつと他は謝つとつとつと何

時のつとつとつとつと朝も通成聞つとつと死を
もつとつとつとつと我又つとつとつと酒色は慎の最
もつとつとつとつと實子つとつとつと又天令なつと
私に欲を多つとつと知る猶成はつとつと唯つと
成つとつと天令成候はつとつとつとつとつと
と容路はつとつと密はつとつと京師はつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと見

つゝ

農又ハ士氏ヲ称——耕耨トハ業——常ニ深慮
ナリト云フニハ偏ナリ剛毅ナリト云フハ慣戡の通フ
少モ耐ヘリト云フハ氣質偏ナリト云フハ黨ト樹ク若
シト云フハ又農人ク若レ知ルニ石不近ハ固リ
ツツ——家産ナリト云フハ——————
ツツ——事ハ別ニ並行ノ目代郷下席の事ナリ

く若との忠節ニ託——租税成ナリト云フ——
隱田成ツツ——事ナリ——事ナリ——若シハ——
クモシ農氏當成格——ハ——公廳ニ辨ヒト
ニシテ若の才ナリ若世成方格——
キト愛ヒト——農氏成方格——人取郡——千余人
ニシテ貌格ヒト——長髪有成——
ツツ——胃ナリ——或ハ裂——長髪有成——
柞杖成

輩と庭と列坐と君別階進く如きは後客と
くのみふ、你等我と恨有り、此廳亦併る事、直也
農長曰、深く君成恨もする事、くく、くく、今時君
の代官も、奇くく、此農成は危けく、く、く、事有
え世後とくく、君不言とくく、君の裁判の額、困く
此、公廳、少所、人、と欲とく、く、言、語、故、く、お、り、事
くく、君、成、事、が、此、之、成、案、くく、くく、く、又、同、様、の、事

曰、我、成、氏、れ、不、通、成、事、く、く、ん、為、目、安、く、箱、成、置、り、你
等、幕、府、よ、事、を、述、ぶ、くく、新、様、成、く、く、く、く、何、と、先
我、は、併、く、ん、農、長、曰、部、生、字、に、列、く、あ、り、く、成、後
くく、く、く、く、君、東、都、め、所、坐、に、競、所、の、事、憂、ゆ、く
くく、く、唯、速、く、は、戸、め、事、を、成、急、平、く、く、く、く、
く、く、く、君、曰、公、廳、上、併、く、く、く、敵、く、く、く、の、に、我、成、
君、對、事、不、乃、く、代、官、成、く、陣、く、く、く、く、く、我、利

我むらゝる事ハ臣ノ命——即チ陣謝ス——將
 國ヲ隔リて以テ目代ラシテ席次ヲ知事ハ素より
 我ハ知事アリ——此ハ乃チ是レ全我罪ノ所成
 モノ之レ你們毫厘モ我ト掠奪ナラズ——此モ幸
 甚重ク——皆死罪成道ナベ——此モ之レ我
 ハ你們ハ為不罪ト極ム——至ク憂トスル不事——
 甚重知事我他未化——幸你們ハ乃チ速ニ事成カ

ところの唯恨しく我你們といふの如くといふは
 你們我といふなりとせむ事と怒成りてと怒忍
 の成成しと我速に苛政と改と租税と安くし
 你們と接育とせし將又應耶は所ん事と我必罰
 とふはいつに早くふはとせしと敢て怒り成
 あらず言語成諍りしと下情小達し利害成論し
 あくば農丈皆感涙と涙し理よきと一人は

廟と祭巾——君れに言は聞る甚恥るやう
君れはふ令——新衣は解——衣はと端
りまぬ十程と嘆——あうと言——酒食と託——食
——あくは農氏不小迷惑——害心はひく——庭
可——作んとす——事は成るも姑く君の多任り又
母——あきまうまは惜り涙は流——く平日は別
小海りる衆

或曰筆に君は業の最也り——未君の政純一なり
さうのひく

片島武雄著

一年はア大ふ少う——君の宅地別業も皆翻焼
とるまう——是と道化とくふ容易のうど苗金取
るぬ——府庫の備過軍威とく時と國中へ諸
廳可——作——旅々恩賜の領知とす誠——さの

費代多きもの事代を君事と聞ゆは、
そのもののあひく曰、諸君は志身は海に、
その辞代も、我常簡素なり、
幼室代礼する事、
れ不意は海に、
代す、
初より、
の領地は減る、
諸君は困窮は、
とも、
利権は、
市中、
君に徳と、
と、

の領地は減る、
諸君は困窮は、
とも、
利権は、
市中、
君に徳と、
と、

しつゝ金と通ふ言成りてきあんと唯か
うんしや傳ふうあすくは宗家とて一
百年のあつて人馬成すまうの金とて石と
ひくふ石あつての通成りては氏の意成りて
之様とて等河と石北は成りては事成
りて金とんや唯事とて計ひある金と
事とて再と小計と石とては聞あひ賛嘆

きうとて御と御と成成りては一統と成の
事成りて今成りての成屋造るの材木の心成り
と成りて通ひなりて諸とて小憚り梅の枝千と
柄と通ひては小筆とて中と聞はては町人百姓
又一回小計と材木の石と顔と一品成りては強くと
顔とて石と再と計と一様とては農高の使とて
育と成りて通成りて席とてはと成り

或曰備後安席于牧草中の清きうきく柑の粒
五百千、町人うきく農人に又やと云ふ進
未も是れ成津小せす

一日九龍果の園より唐ち成増くまにうきく
欲く強ふれい進は草小謂く曰威遊奇毒のこり
我人小は成好すと今已世まふあふ我小厚
と云ふとく都らまがうきく成いすじふ

似く我のま門小日成愛く他の進人ま成思ふ
よ進く成夜つ中く是くうきく成河と余ま成思ん
やわく進ちま成邦のちりくく成邦のま成思ん
わくく成成成思んく成成思んく成成思ん
わくく成のうきくく成くく成くく成くく成
ふの進成思んく成成思んく成成思んく成成思ん
と聞く成成思んく成くく成くく成くく成

即能謹く曰わふに聖乃ち我嘗ていへば他は
法く也くく嘗ていへば事なりとも平云地
の性理天地の性也とていへば受く性く事
く事なりく我の命くくなれ公の所也
我もいへば中款跡の吾教なりを公に
く親親以爲人々に法なりとの通を親め
けく事なりけく我の性禽獸めなり

かゝの如く

或時在京師ありありふ奇難の譯合も想ふに地狼も
いへばく人々と頗るく右譯主とくくの如く
く人くくに儀なりくく近なる者我狼も
彼素く心なり我も寫し人々の教をくく
危難なれいへばく又狼我別とんくくわ
法配とくく威とくく以教と事なりくく

いふに天地のふくむるも必ず天に感ず
と云ふは

右一曰書籍成司の近臣の令く曰近世印の書
籍野史雜史等の内ふ可成者やのる近臣應く
曰臣等も終に利成國江に録指し置成るに
君所覽の有つ様も右列の者成に評判
と云ふに紙園稽含の一章成終年よりこの判

者成同臣曰由み松吉と云ふ人なり右人の言
に書早く門とあり金角ありあつても
我門の事と云ふもつゝ人証と云ふ成漢書成忠と
高小臣と通成たりと眼とつゝ一激怒
つゝ容貌奉止義氣盛なりと前と望みの
一序成争ひ一近臣等午仰に感涙成止る
ゆゑに主後彼隊長の事と云ふ意小遠め

河に舟を乗じて同く遠慮せしむるに忠義
の通成を以て其の世に下はるる重なる後と云
ぬす或時は其の平服有りて監察の士具に頭を
低くし之を請ふ所なり――暫く牢舎より
本有る後日衆成に叩きし者犯す事云々
亮るるに令成は獄中なり――其の――細く通
し頭をさしする時其の世に
物頭とて天下通稱なり
性の善悪を以てし

中より一度縲紲の恥及び獄に入する者成は其の
下に預けし事則ち小はるる辱しなり――其の
公事強はるる若し曰く我れ獄中なり武家子弟同
代に之を愛し今其の辱し言ふに恐るる事固く
文王未だ西伯なり――時成の討王の爲に難し
美里小囚を獄舎に置けし事其の辱しなり――是は
人少くおけし事なり――和漢の名將勇士縲

地をうれく獄に繋ぐ事と殺しとを知らずして
衆名に干渉する——主獄に入獄せしめたる
恥辱といふ——義に——六年の世首の世を
らるる大に責めたるも素より大丈夫の徳を
前之忠孝衆名を少くする——人々他
く天に成るに汚名に干渉せしめたる不
存不義を——大にうけ——今度の二奉の如き

素より主者犯す事なるといふ不義とらるる者
なり——源科成孔明——源家、成以前職に
人々を唯主者の言——死に義と偏する者
く唯源家守令といふ恥といふ——主者、主者
如世——偏小に学ばしめたる主者、主者
主者、主者、主者、主者、主者、主者、主者
主者、主者、主者、主者、主者、主者、主者、主者
主者、主者、主者、主者、主者、主者、主者、主者

世有一度氏士の口より出〜〜再海、理を以て世に
臣君令と拒〜〜羅成侯より〜〜言成変に執
事又沙直成に君より君嘆〜〜曰も有、我世居
かりし祖曾祖父我先祖創業の功成より〜〜甚
むも艱難となり先刻大坂の役も戦殺より〜〜然と
成る興廢、我業より〜〜進退するべき者なりと云
氏方の事ふし〜〜の〜〜後理も清く〜〜今

と用代〜〜に義小督や軍門小倉倉成用ひ
ころいふも意味遠〜〜是人漏れ通成新、小那と
う渭君臣、後義小督の〜〜もの之我成と黙り
事ある〜〜群臣の居る後車の戒とす〜〜早
く黙け〜〜國成を〜〜む〜〜と今〜〜之執
事一君令は〜〜國成を〜〜

氏能れ曰想々本朝西より此風俗能平小奴少あり

近偏剛なり所育く一隊長の下を以て守る平
主人の執権の令れ如き成る用事なり是も平
義と守るなり一平竟に平を以て金庫成る重なる
小如く物なり是も是等の事知明なること
知る義路の事事文のく一平急
平の際なり是も唯義の道く節制成
平の如く一平と一隊長の如く守るは義

節制何なりと一平節制は義理の重なる成指
示く一平の道く一平成る又軍門の節制は金庫成る
一平の金庫成る一平の金庫成る

三平の如く

若くは煙草成りたり一平は考煙草と好むなり又
若くは世の時序成りたり一平は接談しなり又大人煙草
過渡なり一平は数なりと薦めたりなり又一平は
若くは煙草と好むなり一平は見たりなり又

必し清より伐はるゝ衣後と改るゝ西接しあふ大
人卒をうゝ二年のち煙草伐断し用ひ居す
段ふ一世のちも少く毎は前宵より煙草伐用と
しと

私日幕府おはせひふ二年の喪と替居す
しは内小喪伐忘しめりし孝心のより篤敬
の重き事といはるるに君世人は敬愛しあふ

事と切人

いつ時足姓の卒する者の大幸とせふ得る自殺也
と昂時ふ不犯し一重夜よりす生しいつと
りる月監察の望よりみふは書伐取し持しす
生のふは書ふふ不存しし我と涉と伝く自殺
とてみれ書ふと曾而父の自殺の所以伐るふ介
小存ありする後事も書きしるる者も通の

是書成見多し子成るく父は隠小裁する不
考は罪成建責する。子曰人のありて父を
自殺小なり祖小諱是に枯音在いト然父既小相
果はとい言語多き祖罪重き事陽建は成同く當く
言成忠君世有成あり父子の是書然忠あり
執事成始は清は人と逐一ふは集謂く曰父已よ
犯する各父子は隠と見く子は罪得と望り

とありを語と思惑の逐入簡する。父はこれに看
み時なりともいふ事成事成といくは順也なり
人小死成按る事いふ重き通なり今世罪罰ある
類ふくく我惑し唯哀議の宜ふはさるべし
群臣各同成いれりふ事符逐一は死刑ふ極の
時め若く群臣といふ曰已よ衆の慮り成用む
と欲し入れ成令くくられ各事孝の罪重き

と祈る 嗚呼は死罪ふまじとて我胸慰む
不然いんとなすこゝみ不存なり 人主無代目
小島びどん 迷ふまゝ浅殺 拘る不存の者
の戒く 可なりん 喻ふみ不存の者も
せよみ不存こそ親の死はくまふも通ふ
らずみめくふ意は 父ふ事
小倉茂山と世に書く紙は 累察ふみ
通茂知る有ふ少く人々不存

と偏小も狂礼の者あり 又礼は死に死
きふみ小と援け 我はあひずり最地
ふ入れ代今 衆慮あはらん ことさす
の過つらん 事とあはらん 偏小義理は
んの世といふ忠言といふ 憚る
言茂く 我思意と碎論と 数端

多義言とゆふに群居一同小世役と感動し
とて竟小衆議を小衆しとて此に死刑成る

右常小聖賢の書更小眼とてとてとて
ん張の学門を更小とてとてとてとて
者やとてとてとてとてとてとてとて
好とてとて盛衰の榮天とてとてとてとて

少くは是と豎見とてとてとてとてとて
兵法の多義と探とてとてとてとて

氏解れよ曰右祖漢の兵書諸家の秘第成読
しめ第刻第略軍兵振張集機等の通考
兵書小通とてとてとてとてとてとて
しとてとてとてとてとてとてとてとて
兵書良將の兵法用とてとてとてとてとて

相残し多し人と下死しし後、死に多し人と
殺しし後、勝と負、唯、兵伐用、山事伐、下死し
義、不、信、用、ひ、第、し、止、む、御、不、意、力
改、更、ふ、乃、ん、て、敵、方、方、鏖、戦、し、咸、死、し、其
是、不、可、為、と、し、其、自、死、し、わ、と、猶、座、金、を、
以、世、傳、ふ、と、し、可、う、と、後、と、ん、有、金、と、は
世、時、不、知、し、し、官、家、を、玩、用、し、其、人、有、金、と、

教ふ不足なり

君が臣に仕る事一之代の格式にすべしと
と之祖創の功徳也一君の臣と断ある事なく
殊に懇情にそと厚く是ふ侍る事之考
の愛親一あり一臣小愛敬とそとあり
其厚一然中二の露にそと一君小西接せ
らるる我今汝も思ふ事大人小近付する心

地よりそと信敬侍る事主賜ふと皆
大人のをせに違ふれ一に一子

君元来庶子なり一後小兄の業に迷ふ事先
大人の命に依る事一此輩の事一養ふと
なり一此輩の事一時小群臣の中より一同例に
とる事不れなり不敬にそと一君有る事小君に
小執事の事汝も之兄の國に汝も此に服す

不敬となりて者哉自の居るは是れ侍りぬ
自余の居るは是れ侍りぬ
うまのくつゝ

片嶋武雄著

君一年幕府みま一時大名大消る
是れ勤御奉る主備者なり
育司の統る人の衆と教場ふと
熊と様と日夜捷輕の服侍なり
利號金背金報旌旗の物成用ひ
く河原危きふらん

小町をす、今〜曰今日の風勢少あり着所城ふ
大町に防くるなり〜んうふ午日西備成意
子〜は你等しも兵法武藝と教く筋力代地さ
あゝ此時今御幸九段七よりふふおらぐ又樹の所危
難世民の憂〜君消済〜る返り忠成励まど
ろとのふれ最口惜りの〜你等志成我ゆき
せ我々石樹小忠成いしや命〜但〜期しくはそ

法と犯——奮ひ進む中へ——
 本日教令を仰ぐの節刻々張るる忠告もも
 ——若君難の危き代犯——死場の者へと我と
 ——不憂を我場の功小唯を命——又君を
 命——馬場の功小烈大已や君の守る所
 難付するも即ち——此を魔や候ひ大の功小
 向く消息不達な近き唯烈風の功小——

直の向ふは右に陣うつ事なく、所は消し
大度なると、右平日病あり、長ふ、地は常
小日右背に負れ、徳は速く、つめく、良將は
恥ふも、つめ、唯、眼、く、め、筋、力、柔弱、く、我、場、の
銀、難、く、耐、く、く、く、御、ふ、世、時、の、右、難、難、く、小、跨、り
鉄、ふ、を、は、き、き、二、日、二、夜、と、平、皆、苦、ま、く、く、ま、ま、ま、
と、勢、強、く、く、く、者、多、く、く、是、飲、食、節、ふ、く、く、と、飢、渴

の、憂、も、く、く、く、御、ふ、右、飲、食、は、と、平、と、ま、ま、く、
自、ち、小、ひ、り、り、食、く、く、強、く、く、馳、驅、騎、平、の、く、く、
輕、く、く、志、氣、自、若、く、く、く、聊、も、疲、苦、強、く、の、い、ろ
く、く、く、あ、つ、の、く、く、く、胃、中、兵、伐、く、く、二、度、
平、の、幕、府、の、宴、會、く、く、思、く、く、の、く、く、く、世、時、
く、く、く、右、の、才、能、強、健、く、く、く、其、能、軍、勢、小、可、耐
く、く、と、知、も、く、く、く、く、世、時、く、右、の、兵、後、猛、大、の、く、く、

小殿いめい毎隊皆旗印的幟鎗の柄次第に賛
賛進し創とある者うしに防衛の強き事成
知るゆへに台座小建ししに御威を以て云云
臣等私曰君の才成消しめしに御他邦小
是なりと云ふも法有る節制を用ひし
消しめし事成消し小序にちし且予が臣等
和訓小載り如の法則と君の跡と記しし

又法則有るしに臣の心なりと云ふれども大
清の形に其言ふ力に英雄の心成標しし
に愛と擔し人小思ひつれ人心成し
としし又曰るに好し用ふと云ふに臣等
はく臣等と云ふしに願ふと云ふ事なり
商人と云ふ事なりと云ふ事なり
いふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

もいふ下ともいふ安し小中成なりん
くもいふくく御ふ君人心とに
そふふふふふふふふふふ君一世の間
大才と消解ふよ東都東都南部の三あり
わくく他の諸ふふふ骨能消解くく君能
人心成に解ふふふふふふふふふふ乱成
近りふふふふ人貴別意なりんや

君或時郊外ふふふ大流の御成見難少御ふ
の邊りふふ人ふふ集く石尾河ふふ電と
造く飯と御く御ふく右近屋ふふく家君ふ
かゝ同ふふふふふふ屋の非人ふふく中は君開
ひ管内波門のふふふ有る大教幾人ふふふ
やふふふふ非人ふふふ教百人ふふふふんく君
憂のふふふ御く御くふふふふふふふ

きき我大あ、初と日雨露霜雪の張能思ひ
小多ひううう宮内やうう地皆我とふ母と
つと暇人といふも天性一回の人偏石幸ふあうと
形となくもく先福貴貧賤の今ふれはるる聖
賢程子ゆふとめ守孔聖陳蔡の圍もはる
時七日食減減居り皆も三運の物ふり
飲肉の世飢う者多き事、彼門の事多きと
我石蓮の余りもあし、罪我身少海と
則便殿ふへく純孝とる六條の提の側ふ
作く宮内の水人とい居るも雨露と
今今有るも水人といふるも國中は
の仁徳と仰ぎ感激の余ふ水人、我
と我ら盜賊と防やうも他邦の水人
聞世若領のふあう盗賊狼藉する水人

の仁徳と仰ぎ感激の余ふ水人、我
と我ら盜賊と防やうも他邦の水人
聞世若領のふあう盗賊狼藉する水人

世の真如ふを命し招えりなり御下に化乃
人心成感現る事なりさうも君一世の同宿内
過人の憂言なりなり

或曰君非人小飯米汝等一日を人小歌をたの
ふ事成りさうなりなりと実良成不細

君を江戸の町帝勢制の門と領し今大候より
人來し君小並侍す如の扈從等の誓の風と

君をたらしまじし御もさししと形とさうなり

事なりしと君の扈從等某の漢者成

し彼所より誓れ風とさうなり

ものなりし君のふ成され風儀佩り下を紋

の刷ひふり、近は流仕親成勢なり終成とわし

しと成用とさうなり利國乃諸士主風とさうなり

君の人多しなり

君れふ風流を以て俗を教の爲に事一諸ふり
後とて謙讓專とて人よ信ち事一之を
川君れ心なりとて江戶道中の驛舎等に奴
卓郎の湯ふりて我威成忍りて罵怒ふ
てなり高家の坊役なるとは能く情と察しと城氏
高者となしとて唯過順なりとて岩盤と陽を
或は君將の茶店等と懇く語ふと驛舎の前
面より高ふいふ人いふとてなりとて倚る事一な
しとて君是の如き事一も成はれぬとて高家ふいふと
賜へりて事一も人のいふとて毫厘とての憂
事一も人半成とて自百りの言とて語る事一君常曰
じと欲とて事一成人小欲と事一なりとて聖人の
格言とて我小欲と事一人小欲と事一信ち人小
不徒正義とて事一人又不徒とて對と人小損矣

戎あふまゝ損失とて封へ人ふあはまゝに思ふ
る唯に戎推へ人ふあはまゝに思ふ怒の通とてり
不思ふあはまゝに思ふ怒の通とてり
通とてり

君家の諸士執事戎へてん扈從等小少近旅行の
乗懸布團すてん木綿とてりや、同色小木城と
用ゆ乗懸の馬とてり戎腰間へてり

諸國の二王乗懸馬小少り刀を抜布とてりてんや、同色小木城と
用ゆ乗懸の馬とてり戎腰間へてり

柄小雨覆とてり戎腰間へてり
襪小つとてり雨と避とてり
小具之白紋とてり用壯親戎石好唯用極つとてり
の平意戎夫とてり

君平生毎日二坐の講談と儒居人小命とてり
是戎總務の事とてり

均き書架と能くを張る然るをくも假礼の書
六經の類のしるはに冠成正一端坐一めくしに沈
潜一めくし更しめくし

君は月とに幕府のしるはに蓋復炎天の時良諸
士上下其遠路小耐る事成心小方一甚めくし御ふ
如興丁憎人と雇ふ事しるはに一日く小く庸役抄
しるはに或は弊衣の有る長髪れ有る貌短なり

有る近臣のしるはに假礼の醜と睥りく否成事
如と不用君大し割一めくし必形成に庸人と擇
ふ事なりし假にめくしに假物なり我と罵中
小安一昇歩社の醜力と小くしに布衣の汚る
何く我素く容貌と人と汚る人んや庸
人の如きやかの如き小くしに泥し時大に成害
とる事有るしに割一めくし

志を——うき成る——わが心とて下部の飛石肌
渴り如き小心成属りて事皆成と推し他成衆
ぬるも若く我の馬中ふ百——さふ暑寒ふ耐——
休等、ゆらと艱難を——命——我さふ馬中わ——
仇たといふ——飢渴暗——知——さ——う——な——の——強ひ——
飲食の及——も——自獨食——あつた様——百強子の状
なり

或時輕平の人とて京都小新力成遣——強ふ事——
家小堀初井のむらの邊に小強あり不意に強盗り
の過に強賊又強わ——り人成圍む二人數回、創
し被り時成移り小一人に竟小賊——る不害——
今一人書牒の箱と肩小成け——と——一傷軍の戦死と見
く人成の圍成切知りて、中池——城邑小飯——
とて遂に小言を——る者様所の創成被り強く相戦

いそいで受へて佩刀背鋸の如くなまじりて君世有茂
用あり傷害の致死とほなりて謀害成る小掛たり
と云れと因成彼て退き飯ふ忠勇二つとも小能
きう心賞美とせんい有り多うて感
ありうとて我る明の過成免れに格物致知のた
りふいなりとて許可慎て仰俯して是成報
て人成殺してたて建極して止居りて

君親千人に家人且顔門の氏同小なり福有り
も唯君の過少なりて我自れ人の
言なりとて是の如く我君門の好事は万人の
好事は百人の好事は我一人に悪事く言ひ有り
用い承服し凶事有りて用い承服し皆
我一人に成るなりて帝の治なりなり

或曰君親千人の過と云ふはなり程朱の流と

貴く陽明の流流とて残るる最
礼敬と厚く懇情成るる名徳の長く高き
あり佛指とてありあり且釋氏の道成法
とて同くありて言能くして僧俗と選りて
なり自ら佛成相み得るを不主意如何とて
本成知るる

武庫謹て曰右天性温順なり公小毫も社の
質なり是に者の心之に仁とて天地の相成生を
あり通達とて生程とて云世生程成自徳とて人小票
のありとて仁と名付く天地の生程ありて衆
有る極あり御るに者ありて何と社のありん
や百物とて天地のありて主内人といふをどう
會致するありて生とて天地のありて生ありて
ひく是成ありて有るに生とて生程成ありて

人よりなり天地一體の人海なりとも此等貴
族よりなり我れ兄弟のやうにお
争ふ事ありん君公のにとんまりし佛成
法僧と拒み拒み拒み我の隔とあり
隔んや我の隔ありに有るやうと不知中
より佛成法僧と拒み拒み拒み世より
人文過重なり累世常の行なり成法とて

を佛成法とて九年の一毛之王公幕府の貴族

とて皆是とありん君益固難

君の建ふは難の
名益固の文を未

詳成誤めひく氏小聖人の通成教へぬは誤成

婦女の如き其學校小聖人稀ありといふも

〜聖人の通ふは海は〜思ひ成るる

との通達時成法なり思ひ爲難後讓成なり

〜成なり其佛成法なり思ひ成るる

佛氏推之僧と居きあへば公の政通と茂也
焉孝と皆うかへり君父不遇なり成済と
子臣の通患存此少とていつく時世の御と
ひぬの梯乗如何とも一經ふねとん
之優劣素く黑白成分事天下の目
有者能中少く心く者皆蔵り何と優劣
成済くく仁成害とん是の義備唯
成済とく微小糾ひらんとのかく君
小く世の私意くく海とんや若私意
くく仁有と稱一經一蓋成済とく
凡愚はくくふん事く知る君の徳成毀
なり角く史館に監察成く教と受る
人の多成済聞みく多き時、成済時、
憂成済くく自然とけふくくく

貴ふもまた右儒道といふ程なり
偏く印小暇なりや成りしうし門還路
すもものけやきなり右河を欲く程人又
佛小言むと欲く血夜に計とる人一生
佛小言むと欲く怨とる人小言む唯退
敵の謀となりしと乱せしとて強國なり
死とあるなりなり右書讀と書く近

と教く習慣の人競ふ小言ふと通自徳の
如く小言ふなりこの公のいふなりなり
なりなりなりなりなりなりなりなり
磨きし程なり又使識なりなりなりなり
代讀なりなりなりなりなりなりなりなり

ゆゑに小出川を少信と諸侯の陪臣と主君に駕成
お圍へる者なりと人々我思ひおひ小壓拒ひま
其の處に之を斬るは徳の武と小密小教示り
式日大馬前少信と主君あり人々と我常小
馬の他の行列と我の列と壓拒とも必這
列と那列と壓へる人御とつて我我成
壓拒とも一記かゝる事と向々両方我御は陽
の事小出川と他人我構ゆる如く相傷
自體我沈み腰はお力成りねと沈降し我駕を
圍守る者必浮動し手とわ他我壓事
なりとも已む欲とる事人小絶と事なりとれ
其の事人の居小我壓と我思ひ断く人又
と断く人と思ひ必思ふ事と氣と丹田の
事がこの小出川力我腰足の間におひて状直りとし

強力の所小割をくしに印や人と小割をくしに
我々と仰ふく他の歴に防ぎ、恒と清くく
一喜小押は恒と清くく一親小くくハ
活好成好くく一必浮房の私成の公成をく
くくく教へ給へく

氏能私曰公門小孫躬如くくくくくくく
くくくく徳行氏門必心成属くくくくく
くくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく
くくくく丹田小藏免力成候是の関小藏くくく
くくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
の清くくくくく

或時百司の氏と百馬入湯の暇とくくくく
の亦頼事有と監察少所へ又桃李くくく
くくく命と侍又作ち暇くくくくくくく

ちふふ御ふふ主候と云願主の書付成同州の武士
お附主自筆候と云居の起居と如何と云願ひ居り
お居年月と云百司の守り如の廊下迄二小巡廻わ
つと云暑の流成伸一諸成寄と云波の起主
う序ふ有成見と云入湯の全有出成と云
と早命成と云張の成ふ但は命と云波
願主年代と云經有旨と云居不揖と云書付と云寄

と云あり同州の武士と云願主の書付成同州の武士
お附主自筆候と云居の起居と如何と云願ひ居り
お居年月と云百司の守り如の廊下迄二小巡廻わ
つと云暑の流成伸一諸成寄と云波の起主
う序ふ有成見と云入湯の全有出成と云
と早命成と云張の成ふ但は命と云波
願主年代と云經有旨と云居不揖と云書付と云寄

うゝゆふ縁くは我平日你厚情とてふふ子登
の節と重きうゝとて你先年我命成用と思
ひくは之御ふ未は命成我自命とて中流
と高きとてふ縁くは又今我我の縁とて縁の
重きとて道ふ道は御に則報の法とて中流
ひゆに主命とてくは縁の縁とてこの縁の過き
唯過我ふ有ゆ度成境うゝ毫も報事と怒事な

うゝとて縁ふ今我瑞くは縁くは使有るにふ縁と怒
成相有る縁ののよは縁と縁と感とて曰最
令はくは年と徒ふは止むと都生直の令今我
報事と宅の縁とて厚く礼謝とて河を流と
報くは報事成茂如少とて不義成怒とてと
小不堪とてくは厚情の君今成は令小不
つ則云今小竭ゆとて縁とて諾は君用とてふ

今人泣く程うなりといふ邦や水も肩をこしつゝ法を
断つゝ一即断つゝのやうなり執事一断つゝと云ふ事
と知つゝ我つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
法も俱ふ不用事つゝの法士の憤怒つゝ世間の奉
小つゝ我早一察と云ふ人、危殆と云ふ事と云ふ事
事、軒昂つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
又違つゝ執事一と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
形勢つゝ存自我法と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
向後慎むと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
法つゝの法つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
法若人通つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
渴つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
及感嘆つゝと云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

やるなりん

武維私曰事一なり人の望、毫も利と私り
く思ふも、政道主經うん義、公道の公利と
人心の私くえ来事なり一の地私我の徳成をく
天理と布業一義ふらうや君のといふ事新
一し事一なり人の望、毫も利と私り
うく君の望、事一なり我といふなり一し群

臣の忠言成用ひ義理と名なり一臣の私更ふ
他事なり一たは、私事なり、君、我、私事なり、公ふ
と權衡なり、公事なり、私事なり、是成、主利、公ふ
一公ふ事なり、君なり、人も我、私事なり、素り
臣有り、君ありと思ふ、是利なり、公なり、公ふ
中君の望、我、人、民の父母なり、民と望、
國と安、一土地、小事なり、一し、臣と、臣、民

なし天下吾の〜國治り一人要なりとぞ
 天下吾の〜國治りよれど一身の君を
 主とて君徳を修むべし一家の主君徳なき
 時一家亡はる一國の主君徳なくば一國成らず
 是より一人の狗中畜すの中よりわき下
 國家と始ふ是より又天下國家と為らば
 多し誠不疑ならんや

君臣父子
一曰大孝
二曰中
三曰小
四曰忠
五曰信
六曰義
七曰禮
八曰智
九曰廉
十曰恥

氏能礼曰古難と防滴の功を享くを賞義同くし
 而象の記誦漢く小是成化をく我國の京有くく
 の如く呪や治世也

一年一衣束帛小在——南郡小大百司出主の執事
 驛卒一長百司監察の輩——西と平ひ地——南林小之
 その程六十町中風ちや烈——古自福寺の後回乾
 の方一乘院河門主親王よりの方——砲糸——己、伽藍乃
 築地かう——乘院の御所の唐門小柳付あきり、慶平
 室高堂れ方れなりひき、露ほい世時おあり——自福寺乃
 積舎忽破壊となり——人——と、時唐御門主の御親衣、衆
 小向——今令有——宣——郡山の武士共別々松尾食く
 も移肯とさる角——と移令肯とる——移下依く衆皆
 房み此人——常——も程烈——と、働、平日の教令と
 するひ魔やあり——ちの、如小向——と、乘院の唐門奥
 福寺は築地小来うり、方令と地と居——と、時、直皆放
 言——と、曰古清乃る人、咸中、小斃——と、己、人衆かく
 の——と、致——と、丈のり、万、あ、わ、ま、う、——と、つ、た、後、よ

の方一乗院御門主親王より侍の方一門跡あり院系一己伽藍乃
 築地小うつり一乗院の御所の唐門小柳付ありとて
 至高堂にたかきなりひききとていひ世時小ありとて
 自福寺乃
 積舎忽破壊とていひとていひ時官御門主とて御親在り衆

一言一實誠重く〜民を毀つた〜何のた
う〜また〜臣の如く民を此れ兩足
の如く〜民心と離れ時ハ〜
これ臣と使ふこれ中世の〜
〜國因窮き〜臣帝ハ飢渴〜民ハ飢乏
や〜何と飽暖哉自ち〜人明君の如
きハ民と何也〜民は我〜毀傷
中世の〜是故〜
血氣不環〜午足と不知病人と〜
又〜

右一曰京師ハ洛陽の舊蹟と〜
中世の〜
内と〜唯一宗源殿等と礼葬〜
洛陽野の遠河集の僧菴ハ主君の〜

三日餉行軍等の用意もなかりしふりなり
の趣きとやけりやうやうのうたれ百歩を逐て
ち巡りぬは曜靈漸西海小傾きぬ夜半中より
少凱旋く意氣有り已めり流涙野水に流るる
に驚かりし歩りし路も道長年つやうとて
所は同じく衣は新にありやう流涙の流涙野な
り驚ふりし坐なりしなれん心なりけり

爰に我歩りし道長君の心成感を従なく僧
庵のうたへ僧履と問ふりしに丁寧
とて法界成法と珍膳とて御膳小ゆり
武士
僕僕小ゆり百余人皆丁寧小膳部とてさき
最也りし凱旋の心成法の小奴小ゆり
とて事成ありやうと部小餐食のありし
は御し食味と問ふる庵主とて答へしと

謝しつゝ黄巻なりけりめふ聖旨使者と彼僧にせ
給ひていそぎもとの居たりぬる主後君時迄詠
歌ふありて驚きうらむ給ふといふ了四より近長小
向ひて曰わ我驚中かゝる肌幸恩行りしかり
我は乗輿小育り心の乃ちあふ人等駕輿下我
浅解し程星程と巡ねり又供と一匹士小奴小を悉
皆歩ゆりて事御ふ我肌なるといふ知れ主使者
の肌芳くし中我世義とありて宗輿より下
すゝめひてあり

の飢方より中我世義とありて宗興より下
すうくみひーありと

斤島氏稿著

君、惟徳のひと貴しとて、
道と同等とせ
蘆園と極其、
賢者の史記漢の記録も、
詩文歌詠と好く、
如く、
なり、
骨節、
通徳を厚く、
所謂、
君子の儒な


~~~~~君世人と知れし事~~~~~一日礼と尊み  
~~~~~小客已小来、君衣冠と~~~~~之小迎れと  
~~~~~小賓客の礼と~~~~~客論終と講と~~~~~君禮育  
~~~~~と授之

君平日公の法令の事少礼の法と~~~~~孫子~~~~~氏此
背者一人も有事~~~~~人の礼状おな~~~~~其已志と~~~~~
外瑞と~~~~~其内律と存と~~~~~其法令と~~~~~其何

ど容易小礼と~~~~~人御小君之自礼~~~~~必礼
氏小封~~~~~かくの如く~~~~~令~~~~~居り自礼と君礼
礼状見聞~~~~~心~~~~~貴と~~~~~其感化
~~~~~自得~~~~~平生と信~~~~~

又其~~~~~令~~~~~戒~~~~~事~~~~~其神社佛閣  
其の礼と~~~~~其礼~~~~~其礼~~~~~其礼~~~~~其礼~~~~~  
其事~~~~~其禮~~~~~其礼~~~~~其礼~~~~~其礼~~~~~



家内方より

或は又磐花の土地のち南郡 氏士の往来と禁ずるに能く所は

うゝ監察少所へ君徳と應へ可任む事其世の終るまで

又其府より

氏族私小見已る大望の公成すゝゝ 社の徳と防ぎ

公とい私小見と多く又小見も其後自ちわて

私とい公小見といふ其公云性なりゝ私耳目は

鼻の好む如の弁態と中性主の如く弁態客れや

凡人の心常小主なりゝ客来と主と其後造次

顛沛也然き事なり主と客と衣履れはうのやと

そしゝゝ 簾小向ふゝいふれゝ其世の公

潜はゝや其やと好む紅雲の顔と用ゝ時必や先

ゝ外態きなり事なりゝ 丈夫の信ひゝ事ゝ

養食し戒うゝ海も又世ゝ人通の平源養生と



一重——と云ふ食人は害有る食人は益有る養生  
節ふけよと云ふ己小克する孝子に我身體を  
己小任は是父母の遺體なりと云ふ能又うくの如く  
男女通ふ天地の如く兄弟や父母に養生するに嗣成  
生る小是つて不節なりと云ふ禍是より大あるなり  
一人に國成ふ一人に家と破る性命成るなりと云ふ  
わきと己小克うるは世通なるなり若常少節  
食は國の養後と云ふめつす也能といま先  
国房と云ふは母と云ふは皆己小克く公と云ふ  
うは孫と云ふは子の法令と云ふ正に云ふなりと云ふ  
書のと成布なりと云ふ若事と云ふはと云ふは腹  
の病なり人は小良業と云ふは飲食と云ふは自ちなり  
病と云ふはなりと云ふ如くは如くなりと云ふと諺  
ふは三日は度なりと云ふは禍は若の徳の







なり君の河状小威すゝぬ死罪と免まじりし  
者曾々有まじりし一紙の事いふ代風の  
えりし何そ是なりし事いふらんや

大和巡りし一人の曰和列在原守の道より一編少く時志  
ふりし乗輿とわらわらふと諸井のりし一紙の事いふ代風の  
事有り鄙生等々や残文と書れは事なき事比偏なる  
事なりし唯と成るなりし一紙の事いふ代風の事なり

種ありし一紙の事いふ代風の事なりし一紙の事いふ代風の  
鄙生も生如來は肩よりうけし事いふ代風の事なりし一紙の  
微少く生しし事いふ代風の事なりし一紙の事いふ代風の  
曰来の河大君のりし一紙の事いふ代風の事なりし一紙の  
一紙の事いふ代風の事なりし一紙の事いふ代風の事なりし  
とてれ一日の門に二度も鄙生等々小紙の事いふ代風の事  
殊更貴君のりし一紙の事いふ代風の事なりし一紙の事いふ代風の



通るは君の曰くのかく是を速く〜 使者方にも  
 一に此等下等々幸方と思ひやれり唯徐に此等  
 等々〜 近習し軍の曰路と急きは素〜 此等  
 切知れ〜 使者の如く人も皆我〜 君曰路と急き  
 使者の好む如く〜 此等速く〜 此等素〜 欲  
 知れ〜 此等速く〜 此等素〜 欲  
 此等素〜 欲

一、榮々々と唱へ進む草——驚く——叱叱と散る  
 驚き下りて人小恐し入る可速聲と歩みいさゝ時若  
 弊中——はた腹ふつ——は来の人なり叱り散る  
 戒——い食るに唯聲とあ——勢と怒る有  
 度とのあひ————聲とひす者そ人も有事なく  
 時不衣自聲としてなく榮々との終る主付近智一  
 同小聲と先——う——割る所小知と筆と



ゆき〜〜あ〜の聲成客〜〜かくの〜とく  
計いあふ〜〜後世の〜皆暑氣〜とすま〜と  
歌食小刻 忘ぬり〜急悲なり 大なる世ゆふ有〜と  
と聞す下〜慈み存〜と〜世般辛を〜  
〜〜不殺を要ふ〜と〜とふれ破氏中〜  
と清〜〜と人仁の〜と〜と〜

若二世の間春友社を〜と小遊山然の〜と邦外小  
あ〜事一日も〜と唯あ〜事 百幕下代〜  
所忌日〜と拂指小〜と祖代〜と忌日〜と併指〜と  
大岡の教場お〜と是等れ日の如き〜とあ〜事小〜と高貴の市  
中〜と避け〜と通遙の〜と必間通〜と應〜とあ〜事小〜  
若止事〜とあ〜事あ〜事〜とあ〜事あ〜事〜とあ〜事  
〜とあ〜事あ〜事〜とあ〜事あ〜事〜とあ〜事あ〜事〜  
と止じ〜とあ〜事あ〜事〜とあ〜事あ〜事〜とあ〜事あ〜事〜











成行したとくは蘇の實と時と蘇校と生じと應ふ  
う如く蘇幣とふくく害成生ん事知るうと  
ち他の同や有くは祓のゆふ通にうふくくこれ六の  
元言利貞四季の流の春くくく不祐もくくく  
ま平祓くくゆふ通をぬあ、何くく不祐くくく  
鬼神ふ流ふ人い驚く春くく不祐くくく不祐くく  
春くくく人くくく如くく不祐くくく不祐くく  
く人今日鬼神くくくくくくの礼とい今日行事の時

ま宜罰則くくくくくくの礼とい今日行事の時  
近付くくくくくくくくくくくくくくくくく  
く河坐時くくく人くくくくくくくくくくく  
の通くくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくく

右の諸王と名くくくくくくくくくくくくくくくく



はと重し控さけうくく 鄙賤の小奴やうたふ親の兄  
牙利千人と豪きり如くうふ法と令く強はくく  
くくは媽の孫子くく皆怖もて平生城下の寺と  
馬廻大や性くく使者小右用や成敵く七重夜三三度うち  
通ふ事一有暑きその節あく張紐耐はくく粗末なう  
く事え代小同多うくく是後わ君の代はぬく  
漆器の者一人も有り事くく是君禮義とくくあは  
事厚く身少のひあ事くく又きさぬ之帝小諸君の守  
くぬと遠く小巡廻くくあひに信とくくと慰方とくく你  
く暑き小耐くく勅方を張羅の之くは又小用心巡番く  
は社の事くく若出た有くく用櫃の城壘焼くくあは  
あは君の下忠とくく旦夕列くは備くく小似するく  
海をえく平衣とくくくく御小御方とくくあは  
何くくく是暑と花くく是夜と石舎隈くくあは  
て



お進~~~~我威儀小堪~~~~あ~~~~の事~~~~あり  
遇~~~~た~~~~く~~~~言下相承れ遇~~~~る~~~~年~~~~は~~~~り~~~~る~~~~意~~~~り  
あ~~~~る~~~~の~~~~二人~~~~一~~~~長~~~~の~~~~中~~~~に~~~~る~~~~る~~~~百人~~~~の~~~~在~~~~家~~~~と~~~~も~~~~少~~~~り  
後~~~~の~~~~の~~~~~~~~の~~~~境~~~~と~~~~能~~~~は~~~~る~~~~心~~~~~~~~情~~~~中~~~~に~~~~は~~~~り  
少~~~~り~~~~少~~~~り~~~~の~~~~憂~~~~~~~~は~~~~是~~~~偏~~~~小~~~~我~~~~啓~~~~愚~~~~こ~~~~も~~~~く~~~~長~~~~の~~~~通  
と~~~~は~~~~る~~~~る~~~~後~~~~と~~~~は~~~~る~~~~る~~~~幸~~~~と~~~~言~~~~禁~~~~と~~~~祥~~~~り~~~~~~~~信~~~~と~~~~と~~~~  
に~~~~と~~~~る~~~~く~~~~~~~~人~~~~情~~~~と~~~~流~~~~き~~~~あ~~~~る~~~~~~~~う~~~~~~~~少~~~~り~~~~る~~~~る~~~~る~~~~る~~~~

毫も私と存とる通はる者情と通なり者所と偶と悲は  
の通と竭るん~~~~す~~~~

一日城邑の外部小あり~~~~木偶戯遊とる~~~~あ~~~~る~~~~事~~~~有

と嬉戯の唱歌と風者と行本内通と祈~~~~栲列る~~~~後~~~~り~~~~き

き~~~~り~~~~~~~~主~~~~名~~~~高~~~~世~~~~小~~~~り~~~~者~~~~く~~~~と~~~~  
唱歌の名と淨瑠璃と祈と近世の戯あり世時家~~~~中~~~~~~~~乃

諸士~~~~と~~~~~~~~と~~~~~~~~事~~~~成~~~~る~~~~~~~~と~~~~~~~~る~~~~~~~~る~~~~~~~~  
若~~~~日~~~~近~~~~長~~~~何

系~~~~小~~~~何~~~~~~~~曰~~~~你~~~~も~~~~世~~~~友~~~~の~~~~傀~~~~儡~~~~師~~~~と~~~~は~~~~る~~~~~~~~と~~~~~~~~や~~~~と~~~~近~~~~長~~~~曰







角一と懸ふ令一めく

私曰君能離子舞水の如く平生小く嘗て不喜好

若東都小所坐一将一曰京師小右有君此能中一騎卒

長有司下二匹と率ひ慶重の隊と割つて一教令の如く

人取とめ月城邑と離まて一里斗り小奇坂の歌合

世如ふあゝ一京師一哨をあつた己小禁裡やう

茶震殿焼滅とて我茶震殿の棟陷たうとほて馬

近敷と驅と来り速ふ人取と追ひ角一と

お封一と京師  
所司代小金令世報と聞と押太鼓と早や騎まふ速長と

馳と馳とふと夜言のと別小城邑伐とて宮の中刻

京師五條の橋小とて衆都とて二十四百人汗の程十二

里六丁人馬の歩一とて暗夜とて三時市小とて

早禁裡の回縁とて洛の中御小右大よ夢まて隊と

二つ小方獨り小消とて小と休庵重とて角一と



〃 府の御方下降と云ふ事ありし時ふに午の人衆又  
 一十餘人羽着已の下列みあゝまゝ又より隊と云ふ方ら  
 右の御方御方と云ふ又右と云ふ方より取圍ひし消く  
 小降少さるの中のと列少の御方消は郡令十六所と消はた  
 つし世時ふ幸小降の御方二匹皆傷と云ふが長束成  
 焼損し髪髪と焼もする有る事ありしと云ふ被當  
 たり程なりと三時余小十吉屋成地乞し猶と消す

又世時君の品の申ふ馬と少く一時三分小十両星代驅之  
と告なる者なり



備とありしを——暗夜二十の人殺之時半十に  
里成地を、さふらう、小聖路の想きけり、いられた  
是、葛原公の所謂カと、英雄の心と、撰め、事一の學  
きぬ、なり、なり

行島武祐著

若常小近長、小の、後、ひ、回、う、つ、の、官、名、登、列、大、守、祖、父  
忠、義、若、の、官、名、なり、人、を、野、列、大、守、なり、世、成、謝、り、ぬ  
つ、と、神、如、今、登、列、刺、吏、なり、中、に、我、小、遇、たり、祖、父、忠、義  
公、を、古、歳、なり、大、板、の、後、み、大、神、若、怠、德、院、殿、の、兩、若  
小、供、奉、り、自、馬、と、小、敵、と、擊、つ、り、房、名、と、世、成、なり、  
後、世、時、兩、若、の、台、前、小、移、り、登、列、大、守、と、ぬ、り、誠、小







通の述——臂力百人ふとことと義の足る  
両台君は徳——御坐——御の参り刺吏とね  
とふ——日禪の忠とふ所、水の通称とて代々又忠の  
字と傳ふを今一字、忠の字と附——義理小加  
外へは用ふ——と林通春小令とて、林氏則義の  
字成の初——依——参り——人守小任——禪成忠義と  
称——誠小所いり——お君の世き本——と思ふと忠

貞の市い——と——度々言ふなハ後ろふと——  
明君實忠義君の事子わ——兄野別守忠平君  
の業と継ぎ——と忠平君と素——聰明の君と珠  
小氏と愛——後ろ——も厚の——と——嗣子小  
依——明君と——國と知後ろ——と——明君の太  
神君の曾孫台徳院殿の曾孫わ——御坐とて。

君と都小御坐——鎮國への暇と端——時太樹公君と台



前小呂御直小彼仰トクハ常小文武の通と嗜と儒  
通と事トモ身質素小トモ氏と極育トモト

殊勝の如小思食に御ふん年一汝至はるの如常南都小  
大古有る己小自福守危難小乃少如小あれの者速と地如  
伽藍の如と如ひト自福守の千今存る年一偏小汝の功  
小依トモ是之達小は年ト如之加之を比南他の如如小如也と  
防守に始終の如且又今及京師の如又又を府たもトモ

家入る時利と名極遠路と地至る如所と消島は始末一  
ト小彼仰ト如トト小如トモトモトモトモトモトモトモ  
如之如忠勒如如トトトトトトトトトトトトトトトトト  
ト則は如小如如ト

或見時君如台前馬と賜トトモ諸侯の如倒ト  
トモ本國の如トトモ時トモ定程有るトモ是服河馬代  
ト事有る今役如トモ諸馬ハ恒列の如河威の如







と眉目と云ふ小足れつと昔侍所より忠烈小あまに  
は満是と云ふ事へ中へ是小あまやうや後と  
作ると今日返ふと云ふ釣合と云ふと知と知と  
因方浅謝と云ふと知と云ふとと別佳佳と云ふ  
取直人といふ小客へ自ら昔小知食へ美酒と云ふ  
自殺と云ふと知と云ふ酒平酬と云ふ金浪浦市等と  
され小磨舞浅知つと諸王の方と情と云ふ

禁廷回縁へ君遣宮の 御令と云ふとあま諸候  
と云ふと云ふと云ふ 知と云ふと云ふと世時と科  
百金と云ふと云ふ 京師の富高と云ふと云ふと  
小元と云ふと云ふと 君の知と云ふと云ふと喜と  
是と云ふと云ふと 知と云ふと云ふと金と云ふと  
美と云ふと云ふと 知と云ふと云ふと金と云ふと  
と云ふと云ふと 京師と云ふと云ふと



氏等曰平生所くの富家なりきる金銀ともん事と  
那やといへる君實分倍用ひあらず即の租税と寛  
く公勢の賦税減是く諸王に加増庫裏成  
賜年十萬の倍なり府庫も金銀と積る氏  
小由く穀と積る氏放免科小く飢饉の備とな  
く是を存るの職實ふなり氏氏と安  
ちしふわうく君もはうきとくやあは

君二年七月廿二日主師やうく小祇也と云に  
移りく太本此功と西後事人か御ふ一日若手  
初帳内と記す移りく中へ諸女梳りくまはる  
元平日に交りくこれく夢みあうくやわう道臣等  
驚きにありやくみこりく重臣小借りけり重臣等  
驚嘆くく主所為とあはる二人の親居をんく其新に  
し同く君則く者も命りく重臣と遊一小くくのあは







又行へうへに能令定法と云ふ事なり。に毫と施えん  
かあり。一號令とば形なり。人民の困窮也。糶食を  
す食、飽せしむと云ふ。一放捨なり。一酒  
と嬉なり。一校格なり。一享なり。一毎日其を浴室  
に設けり。浴せしむ。一備役人のために大煙を宛て  
てく。布衣をけし。毎一人ふく。之を夜にけし。の甚なり。  
一いふ。一た。一我と你。一と。一其をけし。一

多し。耐ふ。要なり。一備役の如き。一士右運送の苦力  
減小。容易の事なり。一に。一其をけし。一人の被る。一をけし。一  
に。一其をけし。一と。一其をけし。一其をけし。一  
や。一其をけし。一諸臣感嘆。一其をけし。一其をけし。一  
一。一其をけし。一其をけし。一其をけし。一其をけし。一  
命令と云ふ。一其をけし。一其をけし。一其をけし。一其をけし。一

和曰。食、喰ひ。酒、ハ。二。三。夜に。二。三。布衣。



二人小一泊り 湯小淵に凡 毎日七時を湯風呂に成

つゝね沸くと取戸入と浴するに夜小不ふ人召

に召拜つ宛なり 凡た召拜る者中

今朝より下恩深小儀と野更と頑丈も君の仁厚小

感化し没よりも長小属し所より小我々留後小

宜程と感しこの恩徳の厚き誠心一常ん事誠乞

同く事と云ふ執事小所へ已若勝み速に若使容

すゝ宜ふら小留後と感し小我々留後よりも

司う如の没き誠意と信するに誠心貴き事意小

備へ唯忠と云神小誠心一功に小誠金小揃ん

や我々誠意と云小仁と云功と云貴き事小誠意と

用命も是則我仁と云の信するに誠心一功と云

羅れ

右景郡小河坐冬のすより昨葉新の患百尺成累と











王群臣肝膽と碎くく之願く農高の事悲しく成懷帝  
神佛と驚うくも多し誠不置々す御心之  
天壽の命なり亞聖の成化より今于此君臣  
存不命く曰我當不咎之咎と世成謝る明  
日と君臣の禮義と終るんと思くく咎執事と始先有  
司少卿と唐同から集りて監察令成傳  
るく右則禱少卿と近臣小舅もく唐同の中央  
少卿と群臣少卿との終る曰我百幸なり禁裡造  
言く功と終る事なり世病の事誠不置々我世の  
万民との通和と世成謝るんと思く我君との  
の通和と礼義と終る事なり今病急なり  
と死に向く我明後日と世成謝るん事成孫知  
まう今日と又君臣の礼義と終るんと思く王明り  
養子御中太守成王君と則我く思くく跡畧



吾らん中世偏小なりと云ふ之を以て一は正しく我  
同姓なりと云ふ又我建體なりと云ふ君臣の通と義忠たる所  
ものなりと云ふ此等君臣禮なりと云ふ臣下忠と云ふ此等臣下の  
通と臣下臣の正義なりと云ふ君臣の責は各教たる以て  
通と云ふ國家の通なりと云ふ君臣の離る時、國は危なり  
ん世義なりと云ふ又言ふ、此等君臣の義は、  
小徳なりと云ふ、人の言ふ是の如く、  
流るる威く流るるは、  
あり、  
此君臣の義は、  
神君の義は、  
葬送は、  
主君の義は、  
用ひらるる



棺槨の如きハ幸ハ是ハ豫リ〜ハハハ通中ハ幸ハ  
下及ハル事ハ幸ハ是ハ豫リ〜ハハハ通中ハ幸ハ  
武能謹ク曰僕ハ明君建業の後十年〜ハハハ通中ハ幸ハ  
比翼ハ小室〜ハハハ通中ハ幸ハ  
其の如きハ幸ハ是ハ豫リ〜ハハハ通中ハ幸ハ  
の曰君治國の如ク〜ハハハ通中ハ幸ハ  
有年〜ハハハ通中ハ幸ハ

荒僻ハ幸ハ是ハ豫リ〜ハハハ通中ハ幸ハ  
〜ハハハ通中ハ幸ハ  
の幸ハ幸ハ是ハ豫リ〜ハハハ通中ハ幸ハ  
小死〜ハハハ通中ハ幸ハ  
の子群〜ハハハ通中ハ幸ハ  
〜ハハハ通中ハ幸ハ  
〜ハハハ通中ハ幸ハ  
〜ハハハ通中ハ幸ハ  
〜ハハハ通中ハ幸ハ



の事妙なりとせず是等の義皆仁徳の功といふ  
 身一仁といふ所の如くも號徳といふの義は天地  
 の道徳は我なりたる人既に徳の人といふもの  
 身一仁といふ十二經と暗くも諸史百家の書  
 と胸に藏ち鬼神と通つていふ事と何れに  
 一字不通達となく徳といふ事と一他に仁を我の  
 物とせしむる我の心の中は他に仁を我と  
 せずと云他に仁を我とせずと云我を  
 我とせずと云仁徳といふ事と至古存の  
 事と云仁徳といふ事と云仁徳といふ事と  
 思ふに至る存する事と云仁徳といふ事と  
 百十人の家人の心皆刑罰なりと云仁徳  
 の如き事と云仁徳といふ事と云仁徳  
 事又十有五年の刑罰の人唯一人なり



天の時候が社々の有りてならん文通成事  
百行万善皆にしくむらん君仁の如く  
いふ者、通あるは御ふ朱文公の如き書に整  
門小入の最妙なりは是と仰ふ人のなり  
らむやふといふ嘉言善行のれいれ今と云  
ふ事、遠く旦漢人の跡をたづまんは親に徴有  
る事と屬ふといふんや人の通を思ふ  
すべけんや又僕一字一行もいふ事成補むのみ  
まづその如くは明君を思ふは遠く公卿を思ふ  
怒りと海を隔てていふは世書の旨を僕明  
君在世の如く思ふは感と肝小銘  
その如く祈るは我々の通と記憶の衰ふ随ひ忘  
るゝ事なりと恐る時々是と書あつては  
その年久くいふに遠くはよまふと聞



誤りたる事とゆふ——然る凡愚の縦横と  
用ひて仁明の蹟と斟酌する事誠恐と多  
く——僕官と用ひてちとけりとの識  
を以粗和漢の史記といひしやうふ文武の叙政  
事の庸を自の徳の純善なり——且世なり——  
失を以漢和指しやり多し和を以て徳とぞ  
看し以徳の明君と稱せん又天下の危を以  
知りて徳を以て家おさる書林あり二皮是と脱  
く思ふの如く感化——梓小刻——あるふ  
世教の助ありとせん本は乞ふ僕う心憚る旨なり  
と摘録ありと案とりし——うも教化羅ふ  
何——世教の益なりとせんわうと徳の書肆なり  
そく智識の多し記し知のものの百あり——と  
つれもつとぞ君——と移き中世なり——又徳の



人は浅海を舟に乗りて世の門の規模をなす  
んも又憚りなく僕今漂浪の中をふらふ  
家宛と貧乏と世に迫る世書の精  
撰の暇なりとも魯魚の行状なりとも見ぬ  
いかにあつてやういふの暇なれ遠くあつ  
たつて世書と云ふ人君の音のあかぬ  
と野撰と云ふ事ありては予う幸甚な

う通



